

レガシーシステムに捉われない DX 実行プランの研究 —DX 推進に向けた人材マインドと プロジェクト評価指標について— アブストラクト

1. 研究の背景

経済産業省の『DX レポート ～IT システム「2025 年の崖」克服と DX の本格的な展開』の発表を背景に、近年、DX への取り組みが加速している。本邦企業においてもさまざまな取り組みがなされているが、諸外国と比較した場合の情報技術活用の遅れが指摘されている。

DX 推進の遅れには、さまざまな要因が複雑に絡んでいるが、本邦企業の多くが DX 推進の「入り口」に立つことができていない現状から、DX 推進上のマインドセットの醸成と DX 推進体制の整備の 2 つを優先的に取り組む必要があると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、DX 推進に着手する企業の優先的な取り組みを提案することにより DX 推進の入り口に立つことである。このため、「DX プロジェクトの立ち上げと推進に適したマインドセットが必要である」、「DX プロジェクトの立ち上げと推進に適した組織文化・体制を整備するためのプロジェクト評価軸が必要である」という 2 つの仮説を設定して研究を進める。

3. 人材に関する研究

DX プロジェクトを推進するためには、アジャイル型開発の経験があり、アジャイル型開発に適したマインドセットを有する人材の確保が必要であるという仮説を立てた。この仮説のもと、「安定とチャレンジ」、「組織」、「上司・先輩」、「仕事の位置づけ」、「仕事のスタイル・進め方」、「評価のあり方」、「リーダーシップ」、「仕事のスタンス」の 8 要素について、DX プロジェクトが求めるマインドセットと個人が有するマインドセットの関連性について調査した。

調査結果より、企業が DX プロジェクトに対してアジャイル・マインドセットを求めており、アジャイル型開発に適したマインドセットを有する人材は企業に数多く在籍するが、これが DX プロジェクトの推進に活かされていない実態が明らかになった。

4. 組織文化・体制に関する研究

DX プロジェクトを推進するもう一つの要因として、DX プロジェクトの立ち上げと推進に適した組織文化・体制を整備するためのプロジェクト評価軸が必要であるという仮説を立てた。この仮説のもと、経済産業省の「DX 推進指標」を参考に、DX 成否と DX 推進要因に関するアンケート・インタビュー調査を実施した。

調査結果より、DX プロジェクトの立ち上げと推進には、①経営者による自社の事業と DX の関連性、DX 推進意義を十分に理解した上でのリーダーシップ、②アジャイル型開発手法と MVP に基づくプロジェクトマネジメント、③DX プロジェクトにおけるクラウドサービスやローコード開発の積極的な採用が重要であることが分かった。

5. 研究結果のまとめ

人材及び組織文化・体制に関する研究結果より、本邦企業が DX を推進するためには、アジャイル型開発に適したマインドを有する人材の DX プロジェクトでの採用、さらに、当該人材を DX 推進につなげるための経営者のリーダーシップ、アジャイル型開発手法と MVP に基づくプロジェクトマネジメント、DX 推進に適した技術の積極採用を提案する。